

ブラウバックセミナー Brown Bag Seminar

(水)
2021.7.7

日
同時通訳
英

オンライン
(Zoom)
技術支援
九州大学 Q-AOS & TEMDEC
録画期間限定公開

12:10
12:50

12:10-12:15	紹介
12:15-12:40	プレゼン
12:40-12:50	質疑応答

「多死社会」の到来ー超高齢化社会・日本が迎える医療・ヘルスケアのチャレンジ

司会：スコット・バレンタイン教授 (Q-AOS 研究推進コーディネーター)

日本は 1990 年代後半以後、世界で最も進んだ超高齢化社会となってきましたが、その先に待ち受ける社会では何が起こるのでしょうか？今後 10 年間にかけて、日本は戦後のベビーブームで生まれた団塊の世代およびその子供世代の高齢化と死者数の未曾有の増加により、かつてない様々な変化が社会・文化にもたらされる「多死社会」へと突入することが予想されています。そうした変化の代表例として、医療や介護を含むヘルスケアの領域では、人々の健康と長寿を増進することで「クオリティ・オブ・ライフ (生活の質)」を守るという既存のミッションに加え、これまで避けられてきた終末期医療やそれに伴う様々な支援を発展させることで、来たる「多死社会」に備え、「クオリティ・オブ・ダイイング (死の質)」の向上に向けたパラダイムシフトが必要であると言われています。本発表では、こうした日本における「多死社会」の到来と医療・ヘルスケアの在り方をめぐる課題についてお話していきます。



肥後 裕輝 教授
九州大学 留学生センター

肥後裕輝氏は、九州大学留学生センター教授として主に外国人留学生の教育と研究指導に従事し、アジア・オセアニア研究教育機構では医療健康クラスターのエイジングモジュール長として国際共同研究を進めています。肥後氏は、米国・セントラルミズーリ大学で社会学修士号、ボストン大学で社会学博士号を取得後、高齢化社会、社会政策、国際社会学の専門家として、マサチューセッツ州、ミズーリ州、およびサウスカロライナ州に所在する大学機関や研究機関で研究・教育活動に従事してきました。また、国際老年学協会 (IAGG)、米国老年学会 (GSA)、国際社会学会 (ISA) 等の正式会員を務めています。

Key Words

- 「多死社会」
- 「高齢化社会」
- 「死亡数」
- 「社会変動」
- 「ターミナルケア」



登録はこちらから
https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_XyklhDqXQCOKgYU5Gvl3Yg